



# 西中だより

学校教育目標

志を持ち 自ら学ぶ 健康でたくましい生徒

県下に誇れる西中を



桶川市立桶川西中学校

令和4年 5月 2日

第2号



## 未来を生きる子供たちの成長のために

教頭 竹花 功

この4月から本校に着任しました教頭の竹花です。昨年度までの2年間は川田谷小学校に、その前の2年間は日出谷小学校に勤務していました。初めての中学校勤務となりますが、気持ちを新たに全力で学校運営に取り組んでまいります。新型コロナウイルス感染防止対策等、保護者・地域の皆様には、ご協力いただくことが多々あるかと存じますが、すべては子供たちの健やかな成長のためです。どうぞご理解いただきますようお願い申し上げます。

さて、新年度が始まって1か月が経ち、木々の緑が目に見え鮮やかな清々しい季節となりましたが、世間では、ロシアによるウクライナ侵攻や、食品・日用品の相次ぐ値上げ、頻発する自然災害など、暗いニュースばかりが目についてしまう今日この頃です。しかし、先日、とても明るいニュースが飛び込んできました。4月10日、プロ野球千葉ロッテマリーンズの佐々木朗希投手が、28年ぶりに完全試合を達成したのです。野球に詳しくない方には、この凄さがあまり伝わらないかもしれませんが、当日のスポーツニュースや翌々日（翌日は新聞休刊日のため）の新聞でも大きく取り上げられた大記録でした。

完全試合とは、相手の打者を一人も出塁させずに試合の最後まで投げ切ることです。ちなみに、この日佐々木投手が達成した記録は次のとおりです。

- ・史上最年少完全試合（20歳5か月・初完投での達成は史上初）
- ・13者連続奪三振（プロ野球新記録）
- ・1試合19奪三振（プロ野球タイ記録）

まさに「令和の怪物」と呼ばれるに相応しい記録を打ち立てた佐々木投手ですが、これまでの道のりは、決して順風満帆とは言えないものでした。

岩手県陸前高田市出身の佐々木投手は、小学生の時に東日本大震災の津波により自宅を流され、父親と祖父母を失いました。大船渡市に移り住んだ後、少年野球、中学軟式野球で活躍し、卒業時には県内外の有力私立高校から勧誘を受けますが、自分を助けてくれた地元で甲子園を目指したいという思いから県立大船渡高校に進学します。しかし、高校3年の夏、甲子園まであと1勝に迫った岩手県大会の決勝戦では、「故障を防ぐため」という監督の判断で、佐々木投手は登板することなく、高校最後の夏を敗戦で終えました。プロ野球入団1年目も、チームの方針で1試合も登板することなく過ごしました。

岩手県大会の決勝戦については、佐々木投手自身がどこまで納得していたかはわかりません。しかし、我々大人には、未来ある子供たちを正しく導く責任があります。我慢することの大切さも教えてあげなければいけませんし、信じてあげることももちろん大切です。完全試合を達成したときに、佐々木投手の球を受けていた松川捕手は、この3月まで高校生だった新人選手です。監督は、20歳と18歳の若いバッテリーに、大事な試合を任せた訳です。もちろん、本人たちも努力してつかんだチャンスではありますが、それを生かすも殺すも指導者である大人次第なのです。

予測不可能な社会情勢の中で、明るい未来を信じて成長する子供たちにとって、このニュースが少しでも希望の光になればと思いますし、そんな子供たちを、大人がしっかり見つめて、見極めてあげることが大切だと感じました。



佐々木投手の完全試合を伝える岩手日報の号外